

Y09b 国立天文台天文データセンターによる講習会の報告

亀谷和久, 田中伸広, 磯貝瑞希, 小澤武揚, 巻内慎一郎, 藤川真記子, 市川伸一, 高田唯史 (国立天文台)

国立天文台天文データセンターは、国内外の観測装置で取得された天文観測データの収集と研究者への発信を担うとともに、共同利用のデータ解析環境 (多波長データ解析システム; e.g. 田中ほか, 2018 年春季年会 Y15b) を提供している。これに加えて、国立天文台が属する大学共同利用機関法人自然科学機構の設置目的のひとつである「特色のある大学院教育を推進し、若手研究者の育成に務める」を達成し、昨今の膨大な情報量を持つ観測データの円滑な解析と効率的な科学成果の生産を支援するため、主に大学院生以上の天文学研究者を対象にした天文データ解析に関わる講習会を開催している。本講演では天文データセンター主催の講習会のうち、2013 年度以降の 5 年間に開催したものについて概要と運営の実際を報告する。

天文データセンター主催の講習会は、この 5 年間に 16 回開催し、参加者はのべ 141 人であった。会場は国立天文台三鷹キャンパス内の共同利用室とし、遠方からの参加者には旅費補助を行なっている。講習会のテーマは、天文データ解析によく使われるプログラミング言語や解析ソフトウェア (IDL, IRAF/PyRAF, C, SQL, Jupyter notebook 等) を取り上げ、講師はこれらに精通した外部の研究者や天文データセンター職員が担当した。多くの講習会は 2 日間で構成され、テーマに沿った座学と、本物の天文観測データを多波長データ解析システムの計算機群を使用して解析する実習から成る。会場の計算機環境の制約から 1 回の定員は 12 名程度と少人数だが、講師と数人のチューターで丁寧に対応しており、参加者から好評を得ている。また、講師が作成した資料はウェブサイト (<https://www.adc.nao.ac.jp/J/cc/public/school.html>) にて公開している。毎回実施しているアンケート等を参考に内容や運営の改善を続け、今後も需要を捉えた講習会を開催していく予定である。